



# 日本優勝候補破る

## ラグビーW杯 アイルランドを逆転

ラグビーの第9回ワールドカップ（W杯）日本大会は28日、静岡・エコパスタジアム（袋井市）で、日本が1次リーグA組の2試合目に臨み、優勝候補のアイルランドを19-12で破った。通算10回目の対戦で初勝利で、前回大会で強豪の南アフリカに勝ったのに続く金星を挙げた。2連勝でA組首位に立ち、史上初の8強入りへ前進した。前日までアイルランドの世界ランクは2位、日本は9位だったが、この勝利によって日本のランクは過去最高の8位になった。

▼16・17面▶▶詳細、33面▶▶列島歓喜

日本は前半、2トライを奪われたが、田村優の3本のペナルティゴール（PG）で食い下がった。後半も運動量は落ちず、3点を追う18分、途中出場の福岡堅樹のトライで逆転し、その後も追加点を挙げて逃げ切った。

A組の日本は10月5日に

愛知・豊田スタジアムでサモアと戦った後、同13日に横浜国際総合競技場でのスコットランド戦に向かう。

## FW互角以上 トライ呼ぶ

日本の攻撃ラインに4人、アイルランドの防御は3人。球を持った瞬間、セ

ンター中村亮士は数的優位を悟った。「（人数が）余った」という仲間の声が聞こえていた。長短のパスがウィング福岡堅樹に渡る。後半18分、相手の堅守を破る逆転トライが生まれた。

起点はスクラムだった。FW8人同士が押し合う力と力の真つ向勝負。世界屈指のアイルランドに日本が五分以上に渡り合い、攻撃ラインに有利な状況を作り出した。FWの先発平均体

重は約110キロでほぼ互角。日本が上回れたのは、スクラムを専門に指導するコーチの下、8人16本の足の位置やひざ、足首の角度にまでこだわって力を結束させる形を磨いてきたからだ。最前列の中心、フッカーの堀江翔太は「相手に重

圧をかけられる自信があった」。前半35分にはスクラムを押し返し、反撃のペナルティゴールにつなげていた。

南アフリカを破った4年前は「奇跡」と言われた。「（今回は）地力の部分で勝った。サブライズじゃない。なるべくしてなった」と中村は成長を誇る。組織が結束すれば強豪に勝てることを再び証明した。緻密な準備を経て、日本はまた一つ、世界の階段を上った。

（野村周平）

